

未然に防ぐために： ドメイン名トラブルの実態と基本対策

2026年1月23日

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
インターネット推進部 是枝 祐



一般社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

Copyright © 2026 Japan Network Information Center



ドメイン名に関連したトラブルのリアル。 昔から今へ。

想定：30分



▶▶▶ 話者について

名前	是枝 祐 (これえだ ひろし)
所属	日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC) インターネット推進部
担当	<p>ドメイン名関連業務および広報業務</p> <p>ドメイン名関連では、</p> <p>JPドメイン名紛争処理方針(JP-DRP)に関する業務 JPドメイン名レジストリのデータエスカロー関連業務AD.JPド メイン名の審議業務 JPドメイン名の公共性の担保に関する業務 各種調査研究や問い合わせ対応</p> <p>などを担当しています</p>

名称 : 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター

設立 : 1997年3月31日

理事長 : 江崎 浩 (東京大学 大学院 情報理工学系研究科 教授)

会員数 : 170 (2026年1月現在)

活動理念 : インターネットの円滑な運用のために各種の活動を通じて、その基盤を支え、豊かで安定したインターネット社会の実現を目指す

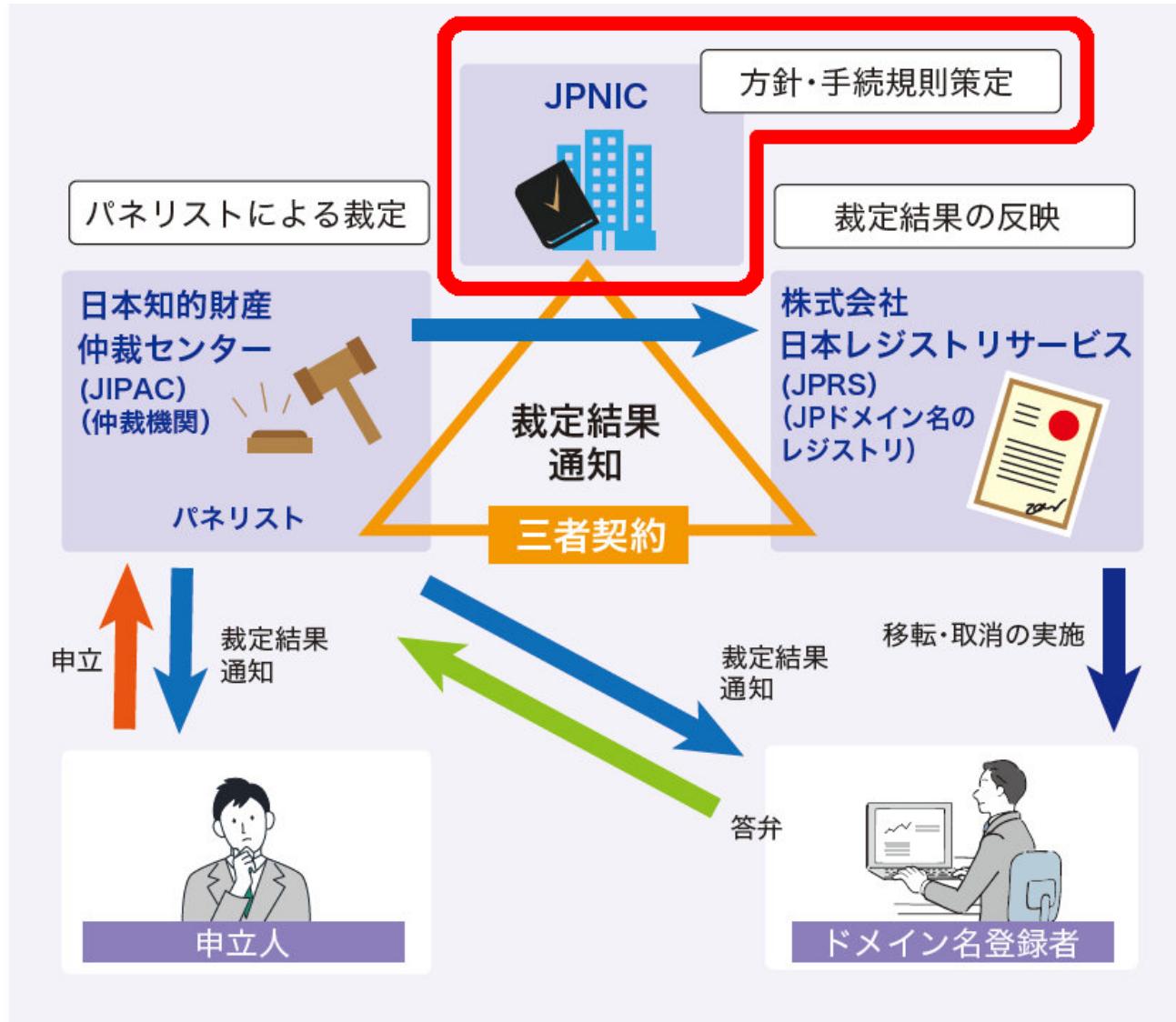
事業内容 : IPアドレス事業(インターネットレジストリ)

- IPv4アドレス、IPv6アドレス、AS番号の登録管理業務

インターネット基盤整備事業

- インターネット基盤技術の調査・研究
- メールマガジン、会報誌、Webによる各種情報提供業務
- Internet Week、セミナーの開催による普及・啓発業務
- 中立的な立場での各種調整、実験環境などの提供
- インターネットに関する政策やガバナンスに関する情報収集および提供、検討への参画

▶▶▶ JPドメイン名の紛争処理におけるJPNICの役割



2002年3月まではJPNICがJPドメイン名の登録管理組織(レジストリ)だったが、2002年4月に株式会社日本レジストリサービス(JPRS)に業務移管

移管後は引き続き、ドメイン名紛争に関するルールの策定、運用を実施

▶▶▶ 事例：典型的なサイバースクワッティング

企業名やサービス名、製品名などを第三者が登録する行為

1990年代から.com/.net/.orgなどのドメイン名で多発
初期は未登録のドメイン名を先取りするケースが大半

JPドメイン名では比較的件数が少ない

登録にローカルプレゼンス要件がある

属性型・地域型JPドメイン名ではさらに属性ごとの要件が必要

汎用JPドメイン名の開始時(2001年)には、紛争を防ぐための仕組みを導入

近年は企業が海外進出する場合などでよく見られる

▶▶▶ なぜこういったことが起きるのか？

同じように自社や自社のサービスを表すものとして使われているが、
「ドメイン名」と「商標」には違いがある

ドメイン名

契約が根拠

登録の際の審査は(原則として)無い

登録する文字列は誰でも好きな文字列を選べる

商標

法律が根拠

登録時に厳密な審査がある

好きな文字列を登録できるわけではない

また、両者は独立したものであり、商標を持っているからといって
ドメイン名に関する権利が自動的に保護されるわけではない

▶▶▶ 事例：登録情報の管理に起因するトラブル

ドメイン名の登録情報が正しいものになつてないとさまざまな問題が発生してしまう

請求などの連絡が届かない

認証に失敗して移転や登録情報の更新ができない

どの事業者でドメイン名を登録しているかわからない



ありがちな理由

ドメイン名を部署ごとに管理するなどしてが全容を把握できていない

担当者が変わった際の引き継ぎミス

引っ越しやメールアドレス変更などの反映を忘れていた

ドメイン名の登録名義が自社になつていなかつた

▶▶▶ 事例：ドロップキャッチ

失効したドメイン名が他者により再登録される行為

登録のルール上は認められた行為で日常的に行われている
ただし、不正の目的による登録／利用などはDRPの対象



ドメイン名の登録とは「認められた期間」に限り、当該ドメイン名の「管理権限の委任を受けること」こと

登録の維持には費用の支払いや更新作業が必要

概念としては「所有」ではなく「リース」

失効したドメイン名はまた他の人が登録できるようになる

他者による再登録は日常的に行われている

利用実績があるドメイン名はほぼ確実に再登録（ドロップキャッチ）されると考えた方がよい

機械的に行われているケースが大半で、人力で競り勝つのは難しい



未然にトラブルを防ぐために ぜひ知っておきたいこと

想定：15分

▶▶▶ ドメイン名登録の時期・文字列の選び方

起業や社名変更、新サービスの開始などを考える時点でドメイン名が登録できるか確認する

それらが世間に知られた瞬間に誰かに登録されると考えた方がよい

ドメイン名の登録にあたっては商標と同じ／類似の文字列を登録した方が無難

ドメイン名紛争処理方針(DRP)による申立てを行う際に、ドメイン名の文字列に関連した商標を持っていると権利を主張しやすい
一般名詞は覚えやすいが保護という点だと難あり

場合によっては防衛的な登録も考える

DRPで取り返せるケースであっても、時間やコストを考えると利用しないドメイン名であっても登録しておくというのは手段としてはあり得る

▶▶▶ 登録や管理における、よくある好ましくない例

登録

- 長期的に使いにくい文字列でドメイン名を登録する
- 部署単位に勝手に登録する
- 毎回バラバラのレジストラ／リセラで登録している



維持管理

- 登録維持のための予算を確保していない
- 担当者アドレスが個人のものになっている & 引き継ぎをしない
- レジストラ／リセラからのメールをきちんと読まない

廃止

- (意図して／意図せず)準備のない唐突な廃止
- 廃止した後は気にせず放置

▶▶▶ ドメイン名を失った後ではできることは限られる

うっかり失効の場合

登録を回復してくれる救済制度を利用する

→ 期間が限られる & 救済の仕組みがないTLDも多い

再登録が可能になるのを待ってチャレンジ

→ 成功率が限りなく低い

第三者にドロップキャッチされた場合

交渉

裁判

→ お金と時間がかかる

ドメイン名紛争処理方針(DRP)に基づく申し立て

→ 対象となるケースが限定される



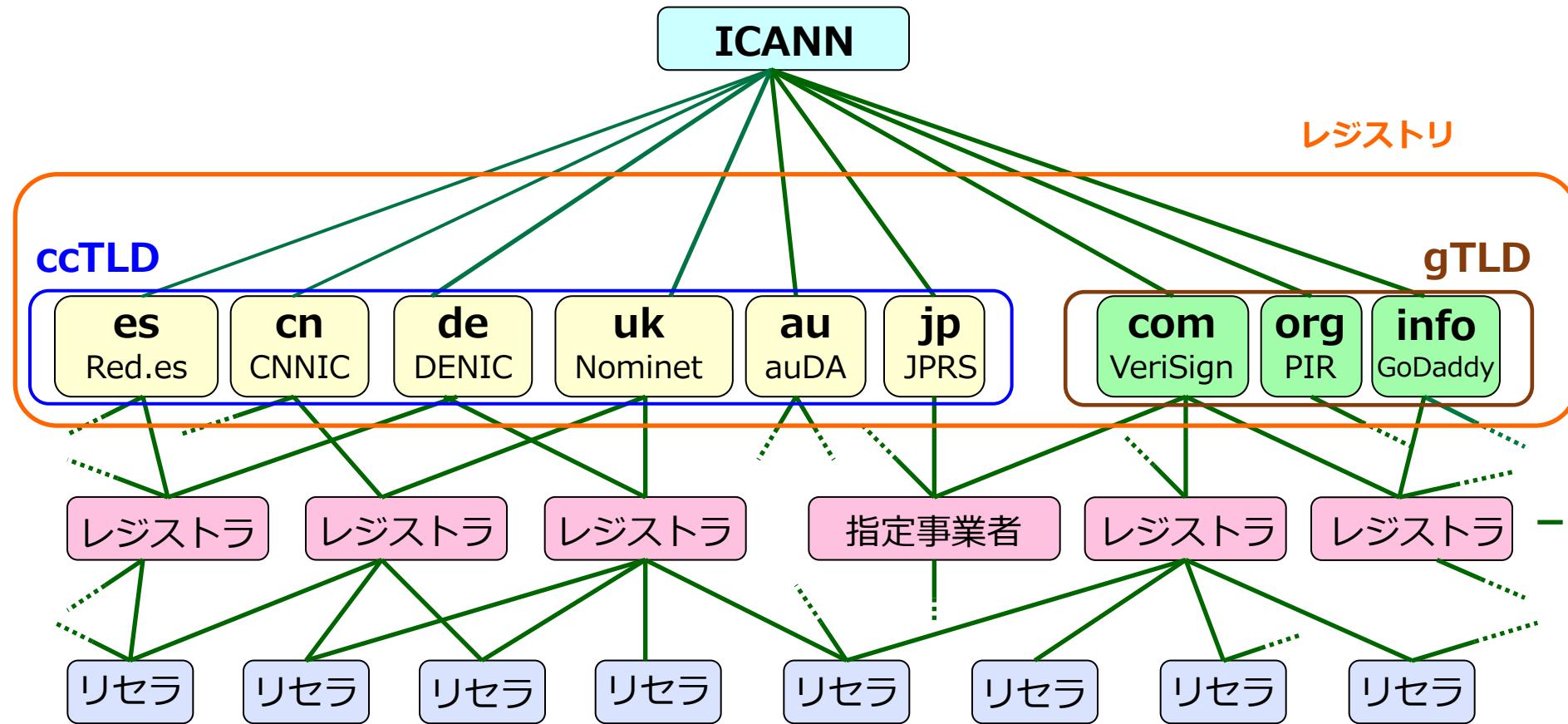
<https://www.nic.ad.jp/ja/drp/>



トラブルが起きたらどうする？ 必要な情報の調べて正しく対処

想定：25分

▶▶▶ ドメイン名全体の管理構造 - TLDごとに管理組織が違う



▶▶ ICANNとgTLD、ccTLD

ICANN (Internet Corporation for Assigned Names and Numbers)

全世界におけるドメイン名、IPアドレス管理の大元



gTLD (generic Top Level Domain) … .com, .net, .orgなど

世界中から登録が可能なドメイン名

誰でも登録できるTLDと対象を限定したTLDがある
新gTLDの導入により数が大幅に増えてきている

ccTLD (country code Top Level Domain) … .jp, .uk, .cnなど

国や地域ごとに割り当てられたドメイン名

各ccTLDの管理方針はその国・地域に委ねられている

▶▶▶ トラブルを未然に防ぐ/対応するための参考情報

Internet Week 2024 DNS Day資料

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/iw/2024/proceedings/d2/>

JPNIC Newsletter 85号 インターネット10分講座

「ドメイン名を巡るトラブルを回避するために ~ドメイン名のライフサイクルマネジメント~」

<https://www.nic.ad.jp/ja/newsletter/No85/0800.html>

ドメイン名紛争処理方針(DRP)

<https://www.nic.ad.jp/ja/drp/>

JP-DRP裁定検索システム … ドロップキャッチなど具体的な紛争事例を検索できます

<https://jpdrp-db.nic.ad.jp/>